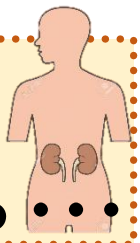
JR ほすぴたる

第 263 号
2023 年 4 月号
発行責任者
事務部長

腎機能が悪いですね



と言われたら・・・

【院長　佐藤　博】

この 10 年、20 年の間に「慢性腎臓病」という概念が急速に広まり、その指標となる「血清クレアチニン値」や「eGFR 値」への関心も高まっています。「腎臓病の早期発見」という観点からは望ましい傾向と言えますが、血清クレアチニンが 1.1～1.2mg/dL 程度の軽度上昇のみで他の検査項目や身体所見に異常がない場合には、どのようなことを考えればいいのでしょうか。

① 腎臓病の原因の多くを占める糸球体腎炎、高血圧性腎硬化症、糖尿病性腎症では、蛋白尿・血尿などの尿異常や、高血圧・糖尿病の病歴があることがほとんどです。学校検尿を含めたこれまでの健康診断の結果が参考になりますし、経産婦では母子手帳の内容を確認することも重要です。

② 尿に異常がなく、高血圧や糖尿病が認められない場合には、普段から服用している薬剤の影響も考える必要があります。なかでも消炎鎮痛剤や、利尿剤、下剤などの連用が腎障害の原因になりやすいことが知られていますし、一般的には「薬剤」と認識されない健康食品やサプリメント類にも注意が必要です。学会などでも、一部の漢方薬製剤や有機ゲルマニウム製剤による腎機能障害が報告されています。

③ アルポート症候群と呼ばれる遺伝性腎炎や、多発性嚢胞腎、髄質嚢胞性腎疾患などでは、家族性に腎機能障害が認められます。

④ 「子供の頃に風邪をひきやすくて頻繁に熱が出た」という病歴が、実は「膀胱尿管逆流などによる腎盂炎の反復」を示す場合があります。片側性の腎盂炎であっても、それが慢性的に繰り返されれば「クレアチニン上昇」の原因になりえます。

⑤ 神経因性膀胱などの尿路系の異常が腎障害の原因になることがあります。

⑥ 出生時の低体重が、成人期の高血圧や腎機能障害の原因になることが知られています。

⑦ 感染症や脱水などにより、健康人であっても一時的に血清クレアチニンが上昇することがあります。

⑧ そもそも腎臓病とは無関係の生理的な現象として、加齢に伴って少しずつ腎機能が低下していきます（35 歳を過ぎると概ね 1 年後ごとに1％ずつ低下するとされています）。

以上のごとく、腎機能障害の原因については様々なことを考えなければなりません。
一度専門医を受診して現状を評価してもらうことが重要となります。

登録医制度をご存じですか？

～地域医療連携室～

当院では、地域の先生方との密接な連携を取りながら施設等を開放し、患者中心の継続性のある適正な医療を提供し、地域医療へ貢献することを目的に、平成 20 年に「登録医制度」を開設しました。2023 年 3 月 1 日現在、登録医は439名（登録箇所は394箇所）になっています。

新規登録医 斉藤先生へ
登録医証を
お届けしました
※そうや在宅診療クリニック
Instagram より引用

2022 年度 登録医となった先生方をご紹介いたします。

登録月	医療機関名	氏名	診療科	地区
4月	富沢あおき内科クリニック	青木　聡	内科、糖尿病科、腎臓内科、人工透析内科	太白区
5月	ひむろ内科・血液内科	氷室　真仁	内科、血液内科	宮城野区
	こころの総合診療室 Canal勾当台	桂　雅宏	精神科、心療内科	青葉区
6月	すがわら内科外科・静脈瘤クリニック	菅原　弘光	内科、外科、乳腺外科、消化器外科	青葉区
12月	医療法人社団裕歯会 そうや在宅診療クリニック	斉藤　壮矢	内科	青葉区

火災総合訓練

3 月 16 日「火災総合訓練」を行いました。火災が発生した際は、迅速な対応が必要となるため、確実な初動体制をとり『被害を最小限に食い止めること』が重要です。今回の訓練は、火災発見時の通報訓練から、各種防火設備について、防火扉の対応方法や注意点、消火器の使用手順や消火栓の放水訓練などを行いました。併せて、エアーストレッチャーの使用法や救助についても学びました。

ボッチャ大会開催

２月１日 リハビリテーション科主催の『院内ボッチャ大会』が開催されました！
当日は6名の入院患者さまが参加し、患者さまからは「久しぶりに興奮したわ」、「次のパラリンピックに出ようかしら」などの声が聞かれました。終始笑顔にあふれていて、運営したリハビリテーション科のスタッフも一緒に楽しんでいました。

《JR ほすぴたる 第 263 号》
☆JR 仙台病院
代表 022-266-9671